

原子力リスク研究センター (NRRC) 第 30 回 技術会議 議事録

1. 日 時：2020 年 7 月 2 日 (木) 10：00～12：00
2. 場 所：Web 会議 (電力中央研究所 原子力リスク研究センター 会議室)
3. 出席者 (順不同、敬称略)
 - 主査： 植田 (NRRC)
 - 委員： 田口 (勝海代理：北海道電力)、金澤 (東北電力)、
村野・山本 (東京電力HD)、伊原・中川・浜田 (中部電力)、
福村 (北陸電力)、宮田・多田・吉原 (関西電力)、
井田 (山本代理：中国電力)、渡辺 (四国電力)、本田 (九州電力)、
山口 (日本原電)、大柿 (日本原燃)、石黒 (石倉代理：電源開発)、
河村 (東芝)、滝井 (日立GE)、池田 (三菱重工)、中熊 (電事連)、
多田 (電工会)、倉田 (原安進)、
高橋・古田・朝岡・西・梅木・喜多・稲田・山本 (NRRC)

4. 議事概要

(1) 2019 年度研究成果について

○NRRC より、「2019 年度原子力リスク研究センターの研究成果」として、「①原子力発電所における内部火災 PRA ガイドの策定」、「②我が国におけるレベル 3PRA 実施を想定した評価コード WinMACCS の適用性の検証」、「③過飽和水蒸気環境における放射性微粒子の粒径分布の取得」、「④原子力サイトの強風ハザード評価技術を開発」について報告がなされた。

(主なコメント ◆外部委員、◇電中研委員)

◆米国の EPRI の成果報告等では、火災 PRA については簡素化、合理化の方向に向かっており、実際に幾つかの発電所にも成果を適用しているとの報告がある。今日の報告では海外の知見も取り入れていくとあるが、その辺の取り組みはどのようになされているのか。米国で実施してきたものを日本でも同じようにトレースしたやり方でやらなければいけないのか。合理化できるのであれば、初めからそのような形で取り込んでしまうというやり方もあるのではないかと考えている。

◇2021 年度からモデルプラントによる火災 PRA を始めようとしているが、ここ数年の EPRI の簡素化に向けた動きが反映されていないところもある。そのため、改めて海外情報を調査・整理し、2021 年度の研究開始時点で、どういったところを工夫すれば簡素化できるかといったところをモデルプラント研究に反映し、現実的なやり方をお示ししたいと考えている。

(2) 2021 年度研究計画について

○NRRC より、「2021 年度原子力リスクセンターの研究計画案」について報告がなさ

れた。

- ◆リスク情報を活用した意思決定 (RIDM) の取り組みの中で、国内ピアレビューの確保に向けた体制検討とあるが、具体的に何をお考えか。
- ◇まず前提条件としてレビューをするためには PRA 技術者をしっかり養成していかなければいけない。そのため、まず国内で PRA を評価できる方々を育成することを第一と考えている。具体的には、6 週間コースや、ASME の標準のガイド等を作成し、米国での取り組みを国内の関係者の方にご理解いただくという活動をしている。そして、ピアレビューに特化したものとしては、実際に米国でピアレビューをどのようにやっているか、レビューはどのような視点で見ているかというところを、米国でピアレビューをやられている方を招いて講義をしていただくということをやっている。

以上